

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

アルツハイマー病進行における イメージングバイオマーカーと認知機能の関係

脳機能画像診断開発部 分子画像開発室

加藤 隆司 室長

平成 23 年 12 月 8 日(木) 午後 4 時 00 分～
研究所 2 階 会議室

アルツハイマー病(AD)は、認知機能が正常範囲の状態から軽度認知障害(MCI),そしてADの診断基準を満たす段階へと進行する。過去におけるAD研究の多数の成果から、このADの病態進行の時系列の中で、さまざまなバイオマーカーがどのように変動していくかという仮説図が提案されている。下図はその代表的な一例である。まず最初に生じるのはアミロイド沈着で、次に神経活動の変動が始まる。ついでタウ関連神経傷害、脳萎縮と続く。その後、最初に現れる症候はADの特に臨床研究においては、研究計画をたてる上で、あるいはデータの解釈の上で、この図が参照されることが多くなってきた。ADの病態進行を解明する上で、パラメータの相互の関係など、多くの課題が残されている。本報告では、AD進行の中での、病態を示すマーカーと認知機能低下との関係の検討結果を報告したい。また、認知予備能がその関係をどのように修飾するかも、あわせて提示する。

